

六月の園藝

— 幼稚園の用意 —

大 岩 金

一、挿木

常緑樹の挿木

ツバキ、サザンカ、チンチャウゲ、クチナシ、マサキ、カナメ、ケウチクトウ、アチキ、ヤツデ、等大方の常緑樹はこの六月下旬から七月にかけて挿木すればよい。

挿す枝は前年生のよく充實したものを十糎から十五糎位の長さにさり、切口はなるべく廣くなるやうに斜切にする。切つた枝は直挿床に挿すか、一度清水中に浸しておいて全部用意が出来てから挿す場合がある。いづれにしても切口を乾かさないうやうにする事が肝要である。

尙丁寧にする時には粘土、又は赤土で切口を覆ふ玉挿にする。一層活着の具合がよい。

挿す場所は日増暑氣に向ふのであるから、半日蔭地を選んだ方がよい。

その外アヂサイ、ウツギ(ウノハナ)等の挿木をしてもよく活く。アヂサイは天插をいつて枝の先端を五、六糎に切

つて使ふに活き易い。然し此頃は花の咲いてゐる時期であるから花のない枝で今年伸びたものの充實した部分をさるのである。

又春播した草花の摘心したものや、ゼラニウム、アルタナンセラなども此頃挿すによい。

二、種子取り

春花壇に植ゑた草花の種子を雨の合間くりに採つて乾かして秋の播種時までしまつておく。

例、キンセンカ、サンシキスミレ、ヤグルマサウ、ハナビシサウ、ムシトリナデシコ等。

三、球根の堀上げ

ヒヤシンス、チューリップ、スキセン、トリテリヤ等春咲の球根類の葉が枯れて来るから堀り上げて母球の廻りについてゐる子球を離して必要なものを丈を日蔭乾にして秋の植込時まで風なごに食べられないやうに仕舞つておく。

四、病蟲害豫防驅除

前月より一層病蟲害になやまされる事が多いのであるから注意して豫防驅除を怠つてはならない。

五、その他

春播草花の移植、摘心、支柱立、施肥、除草なき今月もなか／＼に多忙である。

六、蔬菜に就て

四月に播種した菜豆がそろ／＼收穫出来るやうになる。

トマトは莖の伸びるにつれて支柱に結びつけ中心丈を伸ばして脇芽は絶えずつみ取るやうにしないさいいつの間にか枝が込み合つて始末が出来難いやうになつてしまふ。

馬鈴薯も丈が四十糎以上にも伸びて倒れるやうになれば摘心してやり、又花が咲いたならばそれもつみ取つてやると尙更よいのである。尙この頃になる薯も出来、油斷する薯が地上に表はれるやうになるから土寄をして薯は常に土中に埋つてゐるやうにする。

ツルナ、イチゴの收穫が出来る。

イチゴの收穫の終つたものは下に敷いてある敷藁を取り親株から出る葡萄枝が地中に入り易いやうにしてやる。新に株を増す場合も、もう五年位経つたため更新する必要のある場合には新に葡萄枝を出させるのであるが、是等の必要のない場合には新に出る葡萄枝は出来次第切り取り、親株の勢力を損じないやうにした方がよい。

葡萄枝は親株からかなり多数(十本内外)出、是を伸びるまゝに放任しておけばよく一本の葡萄枝から數株が得られる迄になるものであるが、繁殖用の新株としては親株に近い各々二節位を取つた方がよい。それ故二株位を取つた先は摘んでおきそれ以上伸ばさないやうに始末する。そして新株に葉が數枚出来たならば親株から切り離し、苗床を作つて、株間、條間共に十五糎位にしてこの梅雨期中に假植しておくさよい。

莓は夏冬共に乾燥を嫌ふものであるが、殊に苗の植付時に日照が續くさ、灌水に大變手數がかかる事になる。

ツルナは收穫の合間／＼に液肥をやり長く收穫を續けたいものである。

段々に縦に横に育つて行く落花生にも時々灰をやつたり、液肥をやるやうにしやう。